

備えあれば憂いなし

9月は「**防災月間**」です。

1923年9月の関東大震災や、繰り返される台風・豪雨被害を踏まえ、災害に備えることを目的に制定されました。

大学、そして大学病院は、**いかなる状況にあっても地域のために機能を維持し続ける**責務を担っています。

その体制を支えるのは、職員一人ひとりの意識と行動です。避難経路や非常用備品の確認に加えて、帰宅困難や通勤困難といった事態にも備えておくことが大切です。

日頃から準備しておくことが、いざという時に大きな力となります。

そして今月は、**防災に関する皆さまの気づきや、組織としての脆弱性などについて、ぜひ意見箱にお寄せください。**

現場からの声こそが、大学・病院の**強靭さを高める大切な糧**になります。

災害級の豪雨や地震にも揺るがない体制づくりを、共に築いていきましょう。

大阪医科薬科大学 職員部門代表者一同

設置の意見箱は、まず職員代表が内容確認し、必要に応じて各部門代表者らと協議し、場合によっては法人に対し改善・対応要求を行っているものです。大学・法人への直接のご意見箱ではございません。